

私たちの町の遺跡

二本木発掘物語

■第11話「いろんな井戸」

人間が生活する上で、もっとも必要なものは「水」です。何をするにも水は欠かせません。二本木遺跡が栄えた奈良時代から鎌倉時代にかけて、「水」を得るため多くの井戸が掘られました。二本木は砂質の地盤なので、井戸の壁が崩れないよう、補強にさまざまな工夫が凝らされました。曲物・桶の井戸枠や、木組みや石組みの井戸もあります。その中から調査で見つかった最高レベルの井戸を紹介します。

それは平安時代の終わりに造られた石組みの井戸です。直径4m・深さ4mの穴を掘り、一辺1.1m・高さ3mに石を組んでいます。都でも見つからないような立派な井戸です。井戸を埋める際には、火を焚いてお供えするなど、水神様に対して丁寧なお祭りが行なわれていたようです。水神様は現在でも大切に扱われていますが、平安時代にもそうでした。発掘調査は冬場に行なったため、水はとても冷たく霊気さえ漂っているようでした。1m程も水が湧いて、調査はたいへんでした。調査の数日後私は風邪を引き、寝込んでしまいました。私はこの井戸を大切に扱ったのですが、これが冷氣によるものか、はたまた水神様の仕打ちか、さだかではありません。

熊本市文化振興課 林田和人



都でも見つからない
立派な石組みの井戸、二本
木遺跡は奥が深いよ・・・

→ とても立派な石組みの井戸

